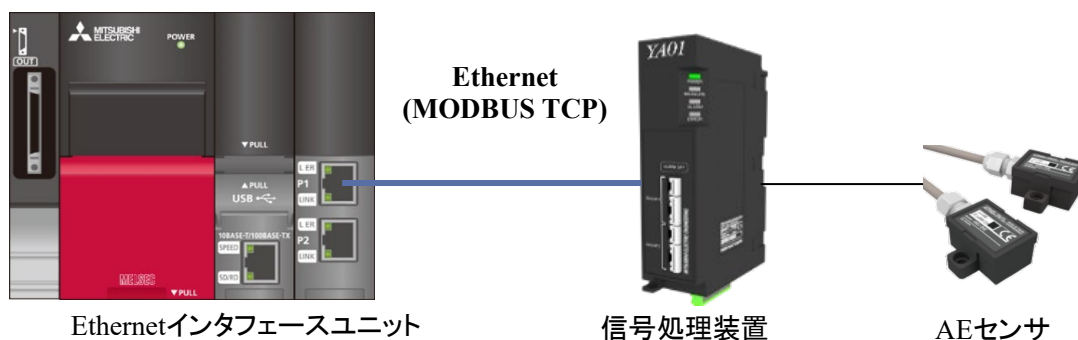


三菱電機 **汎用** シーケンサ

**MELSEC iQ-R**  
series

## シンプル機器通信接続ガイド (MEE SineWave形AEセンサ編)

三菱電機エンジニアリング株式会社SineWave形AEセンサ用信号処理装置YA01-DPTD2-MTとMELSEC iQ-RシリーズをEthernet(シンプル機器通信機能)で接続し、データの送受信を行います。



接続対象

三菱電機エンジニアリング株式会社  
信号処理装置 YA01-DPTD2-MT

通信種別

シンプル機器通信

# 目次

第1章	概要	2
1.1	システム構成	2
1.2	設定手順のフロー	3
第2章	シーケンサの設定	4
2.1	プロジェクトの作成	4
2.2	自局の設定	6
2.3	シンプル機器通信機能の設定	7
2.4	サンプルラダーの取り込み	14
第3章	信号処理装置の通信設定	19
第4章	動作確認	20
第5章	信号処理装置の複数台接続対応	23
関連マニュアル		24
改訂履歴		25

# 1 概要

三菱電機エンジニアリング株式会社 SineWave形AEセンサ用信号処理装置YA01-DPTD2-MTと、MELSEC iQ-R シリーズEthernet機能搭載ユニットのRJ71EN71をEthernet(シンプル機器通信機能)で接続します。シンプル機器通信機能はエンジニアリングツールから通信相手機器およびプロトコルを設定するだけで、Ethernetで接続された通信相手のプロトコルに合わせてデータを送受信できます。

シンプル機器通信機能の詳細については、下記を参照してください。

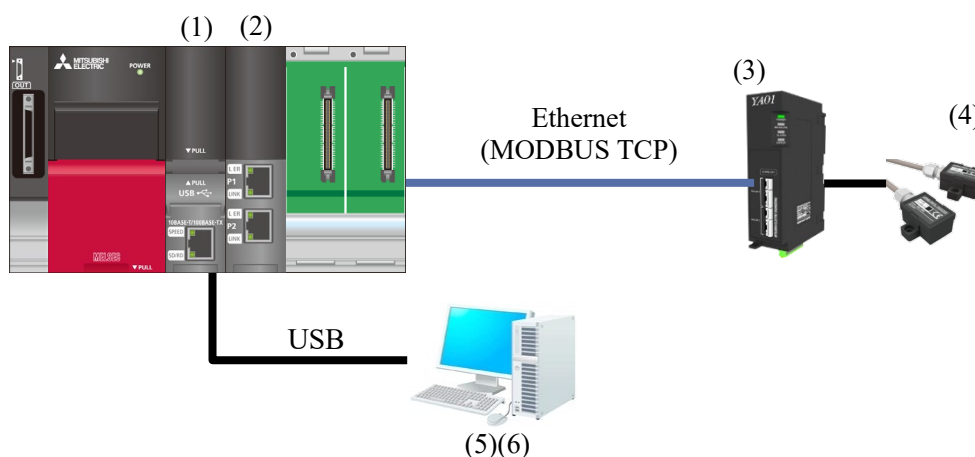
📖 MELSEC iQ-R Ethernetユーザーズマニュアル(応用編)

YA01-DPTD2-MTとの通信プロトコルは、MODBUS TCPを使用します。

## 1.1 システム構成

### 接続例

本書では、下記のシステム構成を例として説明します。



機器/ソフトウェア		形名	バージョン	IPアドレス
(1)	CPU ユニット	R32CPU	ファームウェアバージョン: 71	192.168.3.39(デフォルト)
(2)	Ethernetインタフェースユニット	RJ71EN71	ファームウェアバージョン: 78 <sup>*1</sup>	192.168.0.100 (デフォルト: 192.168.3.40)
(3)	三菱電機エンジニアリング製信号処理装置	YA01-DPTD2-MT	—	192.168.0.1(デフォルト)
(4)	三菱電機エンジニアリング製SineWave形AEセンサ	YA01-SAE	—	—
(5)	設定用パソコン	GXWorks3	—	1.101F
		サンプルラダー	gw_ld-MEE-YA01-DPTD2-MT-E-R_V100A_J.gx3	1.00A
(6)	動作確認用パソコン	softGOT	—	1.310Y
		softGOTサンプル画面	MEE_YA01-DPTD2-MT_FHD_Ver1_J.GTX	ver.001

<sup>\*1</sup> 三菱電機エンジニアリング製信号処理装置とのシンプル機器通信は、ファームウェアバージョン"57"以降で対応しています。

## 1.2 設定手順のフロー

以下の手順で通信設定と動作確認を行ってください。詳細については本書の2章~4章を参照してください。



シーケンサの設定

### 2章

シーケンサのパラメータ、通信設定を行います。



信号処理装置の設定

### 3章

信号処理装置側の通信設定を行います。



動作確認

### 4章

シーケンサからのデータ要求に対し信号処理装置から応答があるか動作確認を行います。



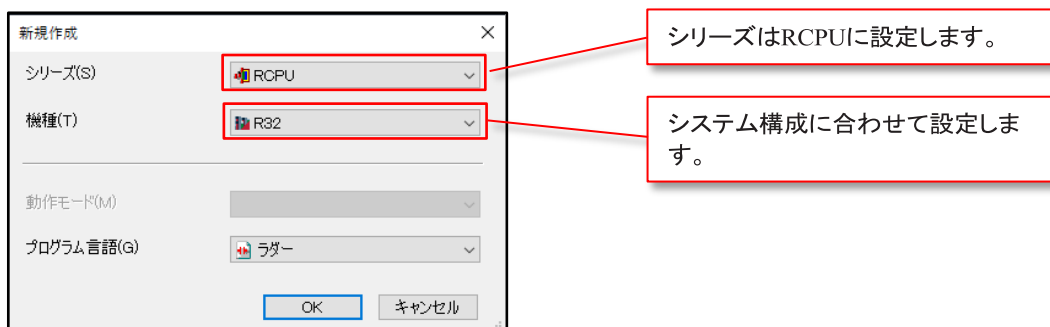
## 2 シーケンサの設定

### 2.1 プロジェクトの作成

#### 操作手順

GX Works3で以下の設定を行ってください。

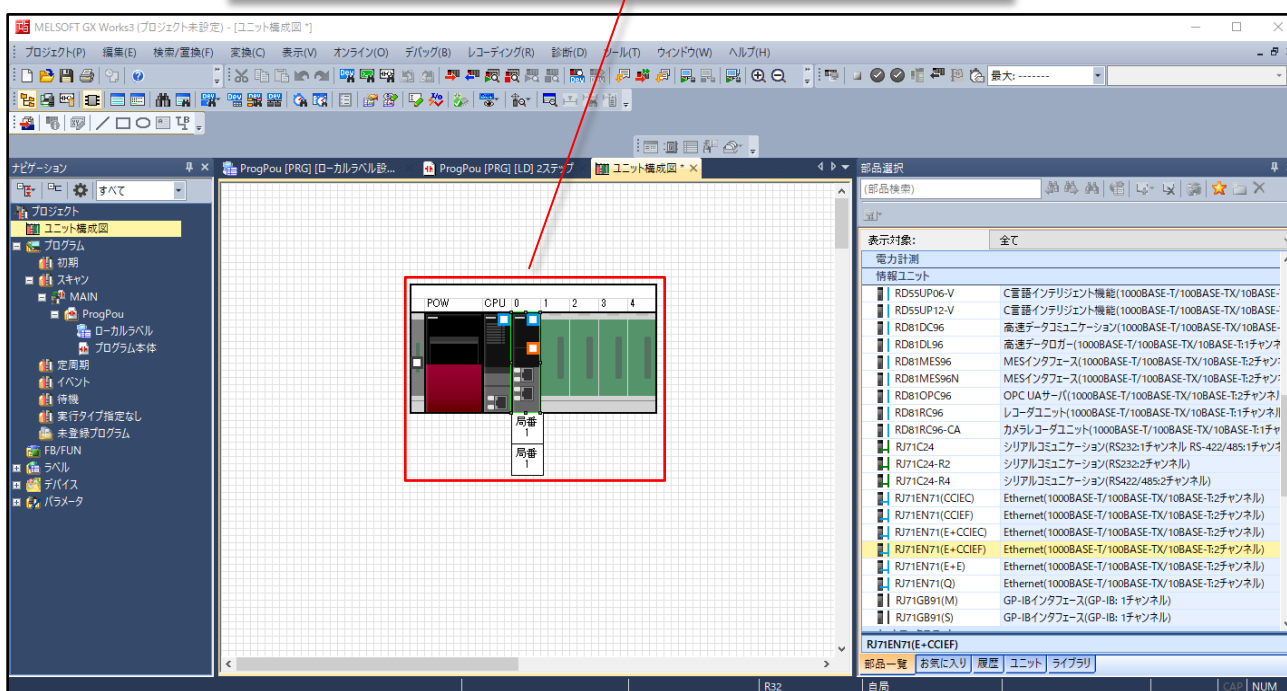
#### 1. プロジェクトを新規作成します。



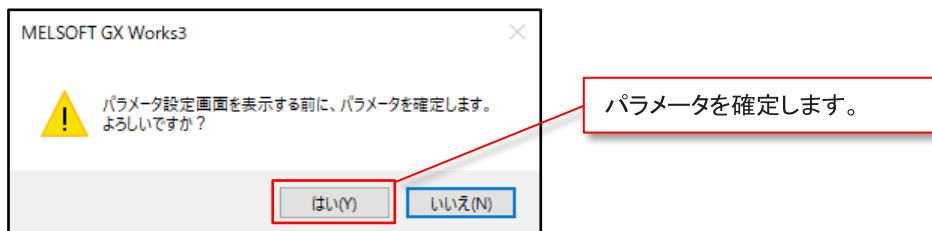
#### 2. ユニット構成図を設定します。

[ナビゲーション]⇒[ユニット構成図]

必要なユニット(ベースユニット、電源ユニット、CPUユニット、情報ユニット「RJ71EN71」)をシステム構成に合わせて設定します。



3. ユニット構成図の「RJ71EN71」をダブルクリックし、[はい]ボタンをクリックします。



## 2.2 自局の設定

RJ71EN71のIPアドレスを設定します。

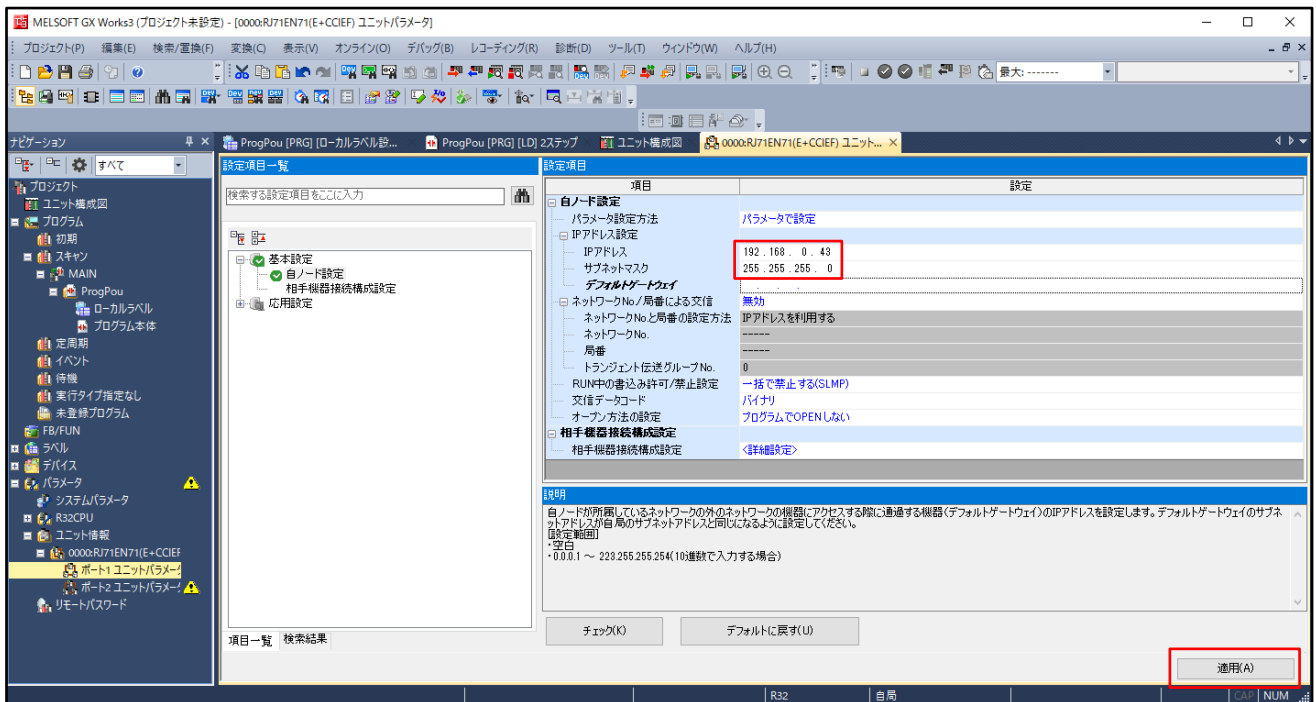
以降の手順はRJ71EN71のポート1に接続した例として説明しています。

### 操作手順

1. RJ71EN71のIPアドレスとサブネットマスクを設定します。[適用]ボタンをクリックします。

① [ナビゲーション]⇒[パラメータ]⇒[ユニット情報]⇒[0000:RJ71EN71]⇒[ポート1 ユニットパラメータ(Ethernet)]

例 IPアドレス : 192.168.0.43  
サブネットマスク : 255.255.255.0



## 2.3 シンプル機器通信機能の設定

シンプル機器通信を行うための設定をします。

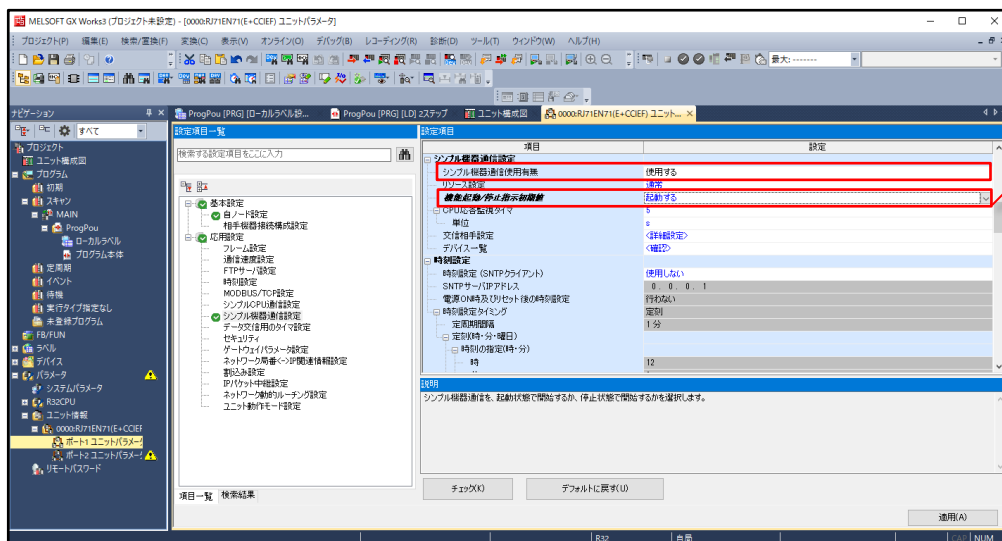
### 操作手順

1. 「応用設定」からRJ71EN71のシンプル機器通信の設定をします。

🔍 [ナビゲーション]⇒[パラメータ]⇒[ユニット情報]⇒[0000:RJ71EN71]⇒[ポート1 ユニットパラメータ(Ethernet)]  
⇒[応用設定]⇒[シンプル機器通信設定]

シンプル機器通信使用有無 : 使用する  
機能起動/停止指示初期値\*1 : 起動する

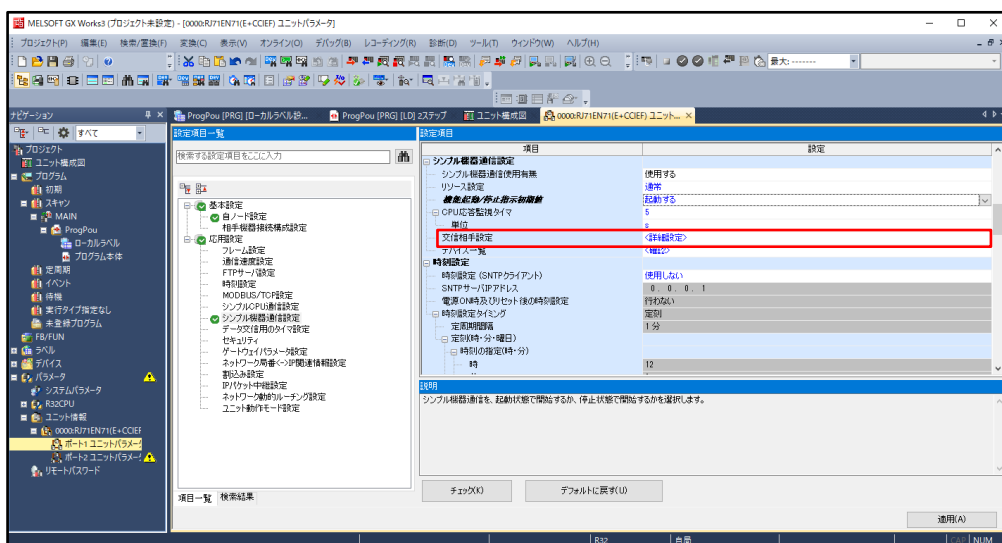
\*1 シンプル機器通信を起動状態で開始するか、停止状態で開始するかを選択します。



パラメータを確定します。ユーザが任意のタイミングで通信を開始したい場合「停止する」に設定する

2. シンプル機器通信で交信する相手機器の設定をします。

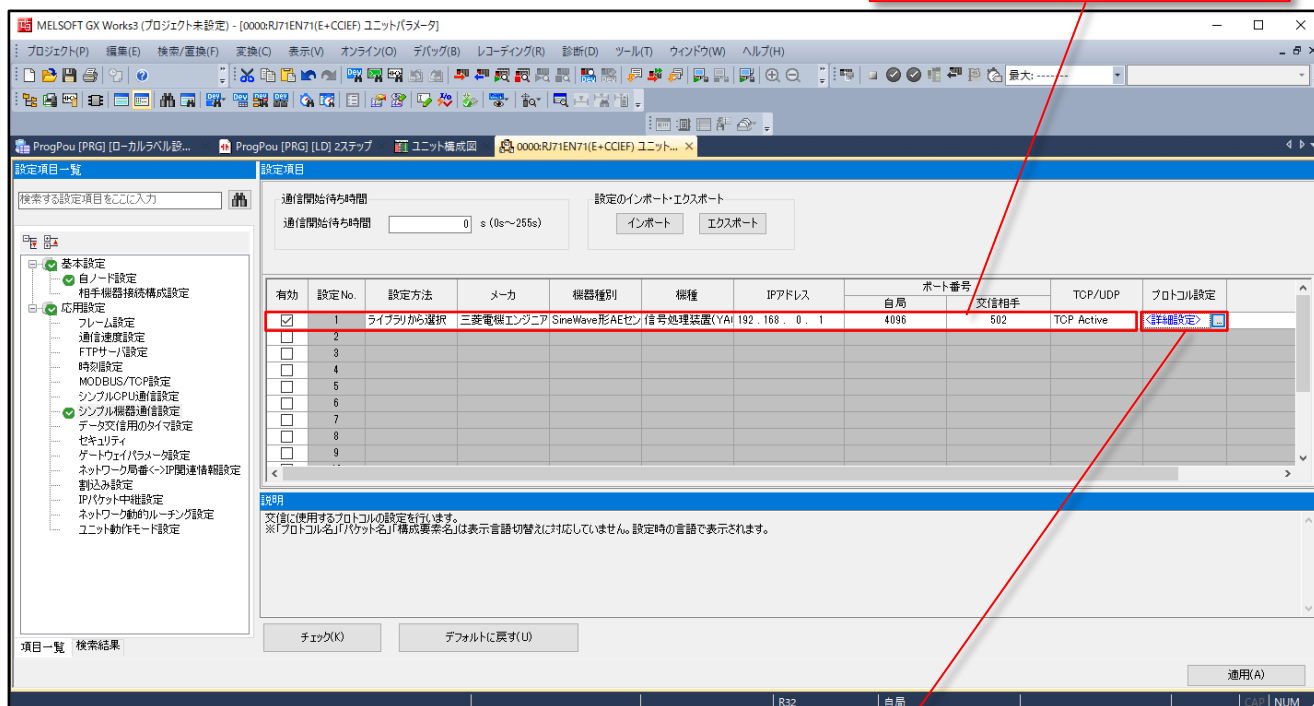
🔍 「交信相手設定」の[<詳細設定>]をダブルクリック





### 3. 通信相手設定を以下のとおり設定します。

手順 3: 通信相手設定をします。



手順 4: ダブルクリックします

項目		設定内容	備考
有効		チェック	—
設定方法		ライブラリから選択	—
メーカー		三菱電機エンジニアリング株式会社	—
機器種別		SineWave形AEセンサ(YA01-SAE)	—
機種		信号処理装置(YA01-DPTD2-MT)	—
IPアドレス		192.168.0.1	信号処理装置のIPアドレスを設定してください。(P.17ページTCP/IPの設定)
ポート番号	自局	4096	自局のポート番号を設定してください。
	受信相手	502	信号処理装置のポート番号を入力してください。(「機種」選択時に自動入力)
TCP/UDP		TCP Active	—
プロトコル設定		別ウィンドウ"プロトコル設定"画面にてデバイスを設定	接続機器と通信を行う際のルールを設定します。接続機器に対してどのような情報がほしいのか、また送受信する情報を格納するCPUデバイスを設定します。

### 4. "プロトコル設定"画面を開きます。

「プロトコル設定」の[<詳細設定>]をダブルクリック

5. 「プロトコル追加」ボタンを選択して、プロトコル番号9に「WR: ゲイン」、プロトコル番号10に「RD: ゲイン」を追加します。

プロトコル設定

ツリー表示(T) <<

プロトコル追加(A)

合計登録プロトコル数10/256

合計登録バケット数90/768

合計バケットデータエリア使用率12%

①: 1WR計測周期

②: 2RD計測周期

③: 3WR計測動作命令

④: 4RD実効値

⑤: 5RDゼロ最大値

⑥: 6RDカウンタ値

⑦: 7RD内部状態

⑧: 8RD内部エラー状態

⑨: 9WRゲイン

⑩: 10RDゲイン

プロトコル番号	プロトコル名	文信設定	実行間隔(ms)	通信タイプ	受信照合結果	送信受信パラメータ設定	→送信←受信	バケット名	構成要素番号	構成要素種別	構成要素名	構成要素設定
9	WRゲイン	要求		送信&受信		＜詳細設定＞	→	要求文文	1	固定データ	文信ID	(2B)0001
									2	固定データ	プロトコルID	(2B)0000
									3	レングス	伝文長	(4-9)/HEX/10B/2B/×1
									4	固定データ	ユニットID	(1B)FF
									5	固定データ	ファンクションコード	(1B)10
									6	固定データ	先頭レジスタアドレス	(2B)0004E
									7	固定データ	書き込み点数	(2B)00002
									8	レングス	バイト数	(9-9)/HEX/1B/×1
									9	変換なし実数(固)	データ	〔実数未設定〕4B/下/上/有
							←(1)	正常応答	1	固定データ	文信ID	(2B)0001
									2	固定データ	プロトコルID	(2B)0000
									3	レングス	伝文長	(4-7)/HEX/10B/2B/×1
									4	固定データ	ユニットID	(1B)FF
									5	固定データ	ファンクションコード	(1B)10
									6	固定データ	先頭レジスタアドレス	(2B)0004E
									7	固定データ	書き込み点数	(2B)00002
							←(2)	異常応答	1	固定データ	文信ID	(2B)0001
									2	固定データ	プロトコルID	(2B)0000
									3	レングス	伝文長	(4-6)/HEX/10B/2B/×1
									4	固定データ	ユニットID	(1B)FF
									5	固定データ	ファンクションコード	(1B)90
									6	変換なし実数(固)	データ	〔実数未設定〕1B/下/上/無
10	RDゲイン	要求		送信&受信		＜詳細設定＞	→	要求文文	1	固定データ	文信ID	(2B)0001
									2	固定データ	プロトコルID	(2B)0000
									3	レングス	伝文長	(4-7)/HEX/10B/2B/×1
									4	固定データ	ユニットID	(1B)FF
									5	固定データ	ファンクションコード	(1B)03
									6	固定データ	先頭レジスタアドレス	(2B)0004E
									7	固定データ	読み出し点数	(2B)00002
							←(1)	正常応答	1	固定データ	文信ID	(2B)0001
									2	固定データ	プロトコルID	(2B)0000

プロトコル番号

バケット番号

構成要素番号

エラー内容

デバイス一括設定(B)

チェック(C)

OK

キャンセル



- ・プロトコル追加後は、デバイスや構成要素の未設定によるエラーが発生します。  
内容を反映する(手順9にて[OK]ボタンをクリックする)と、エラーがクリアされます。
- ・手順3にて、「設定方法」が「ライブラリから選択」の場合、プロトコルが1つも設定されていない状態で"プロトコル設定"画面に遷移すると、特定のプロトコルが自動で追加されます。

## 6. [デバイス一括設定]ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'Protocol Setting' window. At the top, there are summary statistics: '合計登録プロトコル数 10/256', '合計登録パケット数 30/768', and '合計パケットデータエリア使用率 12%'. Below this is a table with columns: 'プロトコル番号', 'プロトコル名', '文種設定', '実行間隔 (ms)', '通信タイプ', '受信照合結果', '送受信データ格納エリア', 'パケット名', '構成要素番号', '構成要素種別', '構成要素名', and '構成要素設定'. The table lists protocols 9 and 10. Protocol 9 is 'WRゲイン' and Protocol 10 is 'RDゲイン'. Both are set to '要求' (Request) and '送信&受信' (Transmit & Receive). The '送受信データ格納エリア' column has a dropdown menu with options like '←(1) 正常応答' and '←(2) 異常応答'. At the bottom right, there is a 'デバイス一括設定 (B)...' button, which is highlighted with a red box. Other buttons include 'チェック(C)' and 'キャンセル'.

## 7. プロトコル番号1～10の範囲で「受信照合結果」と「送受信データ格納エリア」の先頭デバイス番号を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

プロトコル番号 : 1 - 10  
 受信照合結果 : ZR1  
 送受信データ格納エリア : ZR100

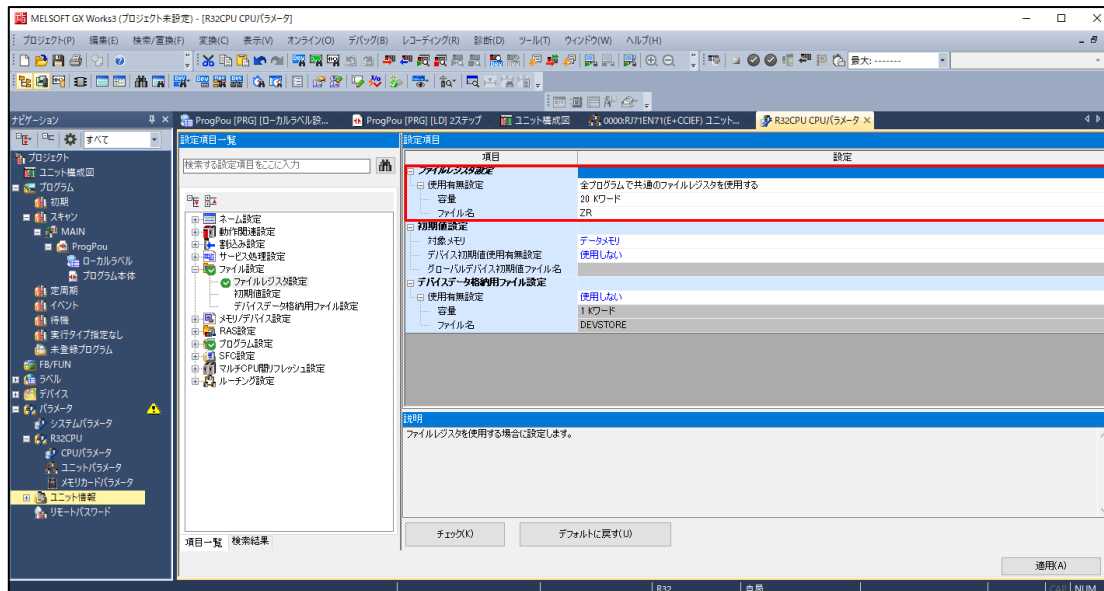
The screenshot shows the 'Device Batch Setting' dialog box. It has three main sections: '設定プロトコル番号範囲指定' (Set protocol number range), '先頭デバイス番号' (Start device number), and '送受信データ格納エリア(D)' (Transmit/Receive data storage area (D)). The '設定プロトコル番号範囲指定' section has a dropdown for 'プロトコル番号' set to '1' and a text field for '範囲' set to '10'. The '先頭デバイス番号' section has a text field for '受信照合結果(R)' set to 'ZR1'. The '送受信データ格納エリア(D)' section has a text field set to 'ZR100'. At the bottom, there are 'OK' and 'キャンセル' buttons.

プロトコルで設定した通信が  
正常に動作したか、結果を格納する  
デバイスを設定します。

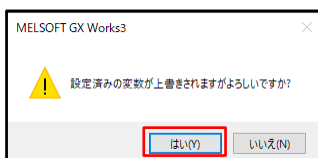
送信する情報または受信した情報を  
格納するためのデバイスを設定します。

## 注意事項

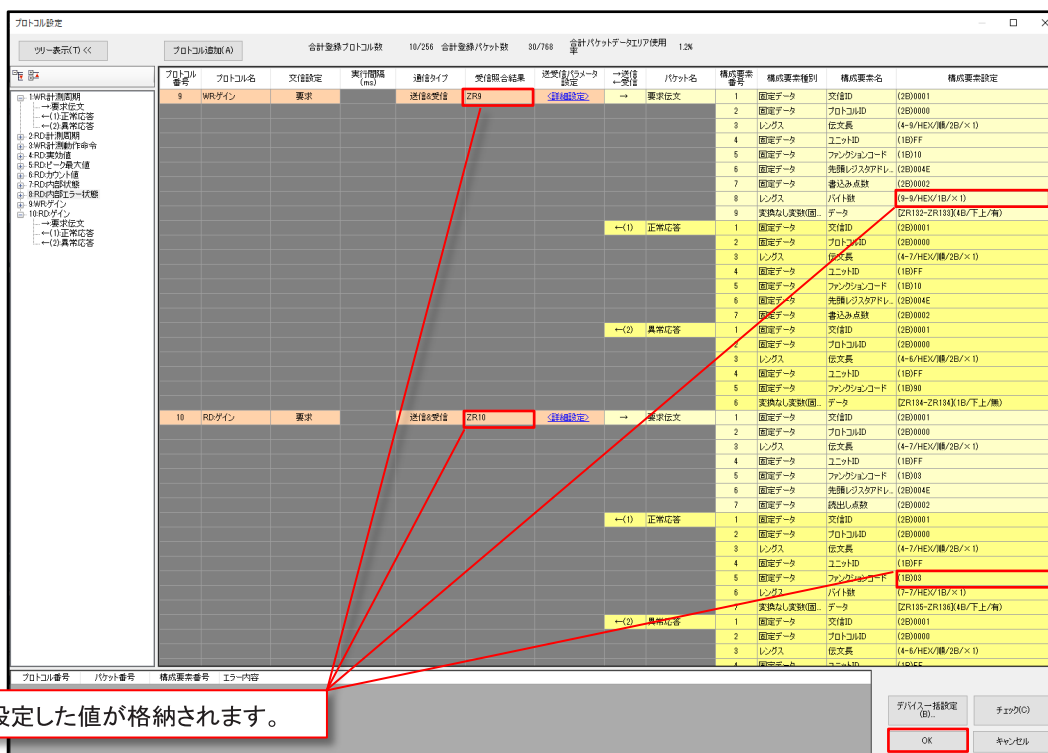
- ・使用するデバイス名「ZR」が使用できない場合は、下図[CPUパラメータ]-[ファイル設定]-[ファイルレジスタ設定]をご確認ください。
- ・プログラムで使用するデバイスとプロトコル設定で使用するデバイスが重複しないように設定します。  
設定後、[適用]ボタンをクリックします。



### 8. [はい]ボタンをクリックします。



### 9. [OK]ボタンで"プロトコル設定"画面を閉じます。



手順7で設定した値が格納されます。

画面の見方を説明します。

手順7で設定したデータ格納エリアは、構成要素設定の"[]"内に表示されます。

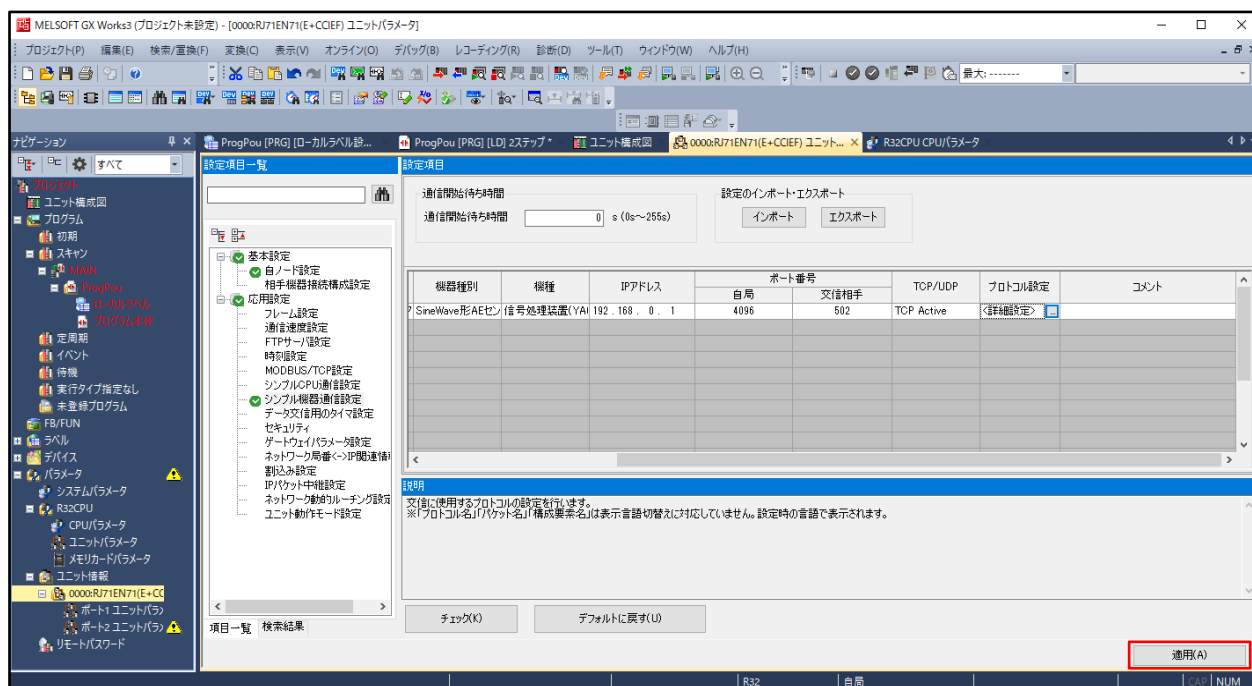
例 信号処理装置側の保持レジスタに格納されるゲイン設定の情報を読み出す。

→	要求伝文	1	固定データ	送信ID	(2B)0001
		2	固定データ	プロトコルID	(2B)0000
		3	長さ	伝文長	(4-7/HEX/順/2B/×1)
		4	固定データ	ユニットID	(1B)FF
		5	固定データ	ファンクションコード	(1B)03
		6	固定データ	先頭レジスタアドレ...	(2B)004E
		7	固定データ	読出し点数	(2B)0002
←(1)	正常応答	1	固定データ	送信ID	(2B)0001
		2	固定データ	プロトコルID	(2B)0000
		3	長さ	伝文長	(4-7/HEX/順/2B/×1)
		4	固定データ	ユニットID	(1B)FF
		5	固定データ	ファンクションコード	(1B)03
		6	長さ	バイト数	(7-7/HEX/1B/×1)
		7	変換なし変数(固...	データ	[ZR135-ZR136](4B/下上/有)
←(2)	異常応答	1	固定データ	送信ID	(2B)0001
		2	固定データ	プロトコルID	(2B)0000
		3	長さ	伝文長	(4-6/HEX/順/2B/×1)
		4	固定データ	ユニットID	(1B)FF

要求伝文で情報を要求

正常応答で ZR135, ZR136に  
ゲイン設定情報が格納  
※ZR135: センサ1のゲイン  
ZR136: センサ2のゲイン

## 10. [適用]ボタンをクリックします。



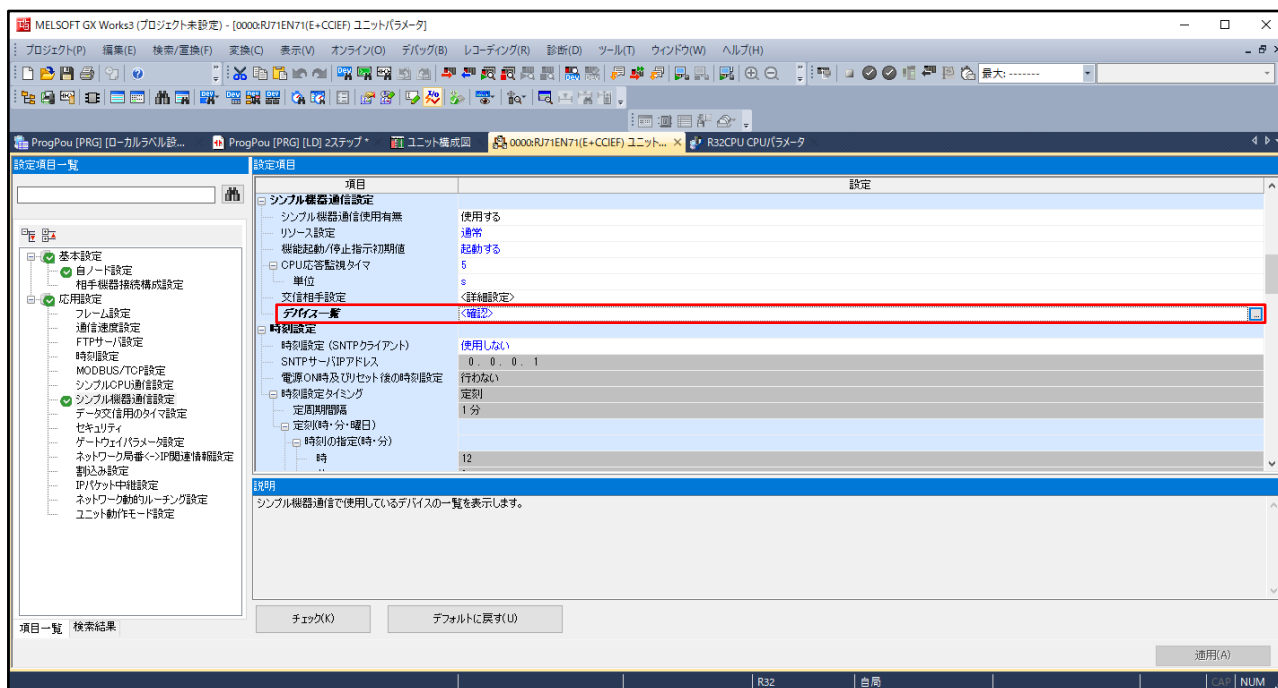
## 11. 設定したパラメータをCPUユニットに書き込み、CPUユニットをリセット、または電源をOFF⇒ONします。

## デバイス一覧確認方法

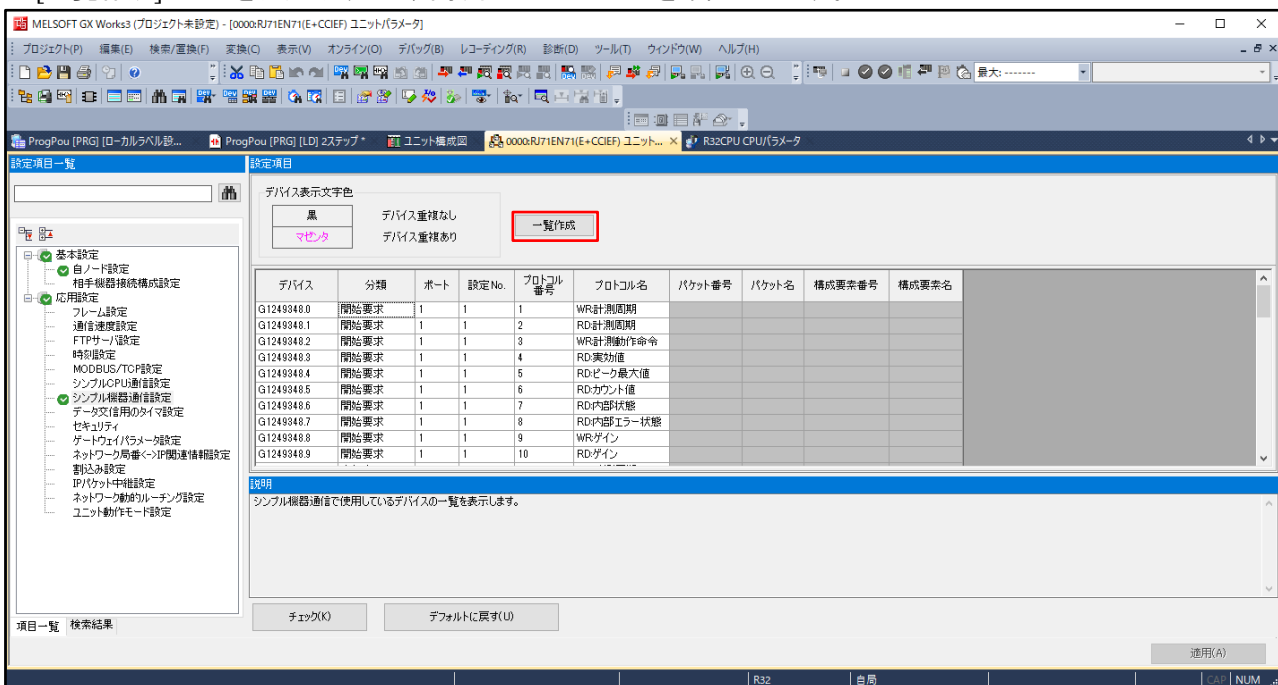
シンプル機器通信で使用するプロトコル設定で割り付けたデバイスを表示し、デバイスの重複を確認できます。

### 操作手順

1. [シンプル機器通信設定]⇒[デバイス一覧]の[<確認>]を選択します。



2. [一覧作成]ボタンをクリックすると、割り付けたデバイスを確認できます。



### 注意事項

プロトコルによって読出し/書込みするデータのサイズが異なります。

使用する"プロトコル設定"画面やデバイス一覧で読出し/書込みするデータのサイズを確認してください。

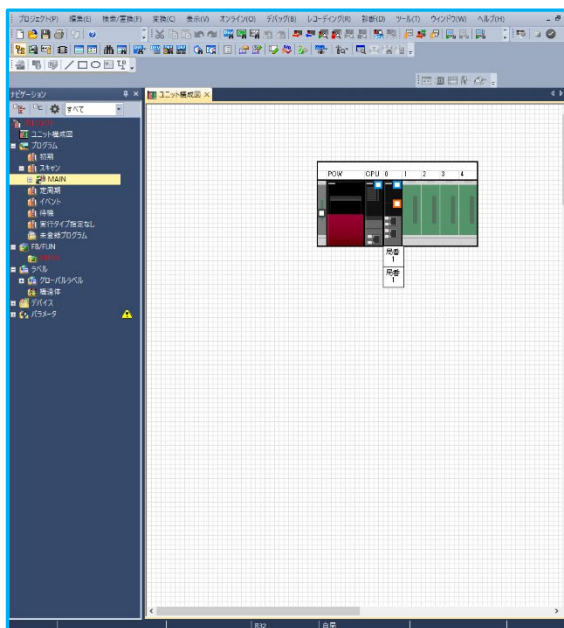
## 2.4 サンプルラダーの取り込み

サンプルラダーの取り込み手順を示します。

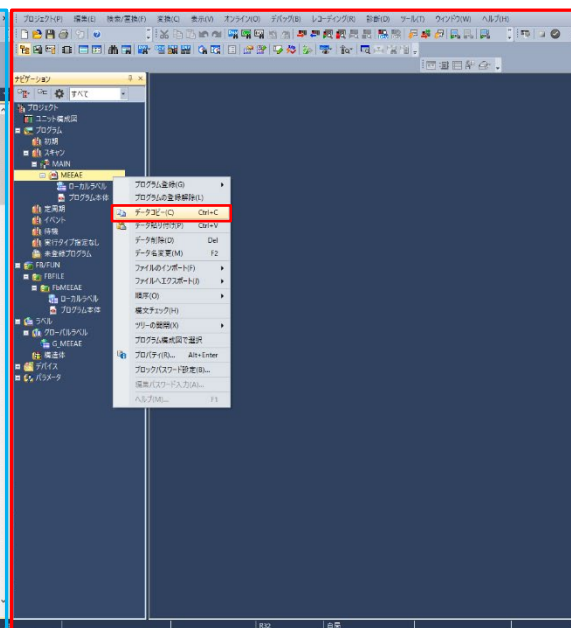
### 操作手順

1. GX Works3を新規で立ち上げ、サンプルラダーのプロジェクトを開きます。  
サンプルラダーのプロジェクトファイル:[gw\_ld-MEE-YA01-DPTD2-MT-E\_R\_V100A\_J.gx3]
2. サンプルラダーの[プログラム]⇒[スキャン]⇒[MAIN]⇒[MEEAE]を右クリックして[データコピー]を選択し、  
任意のラダーの[プログラム]⇒[スキャン]⇒[MAIN]を右クリックして[データを貼り付け]を選択します。  
※P.13で出力したデバイス一覧と任意のラダー内で使用されているデバイスに重複がないことを確認してください。

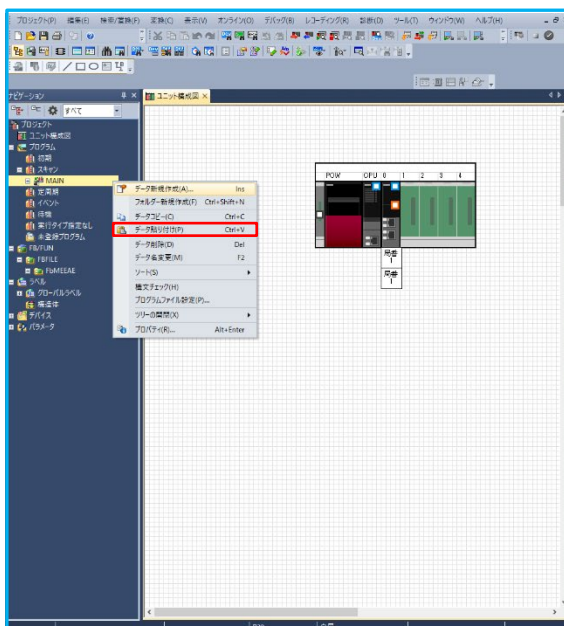
任意のラダー



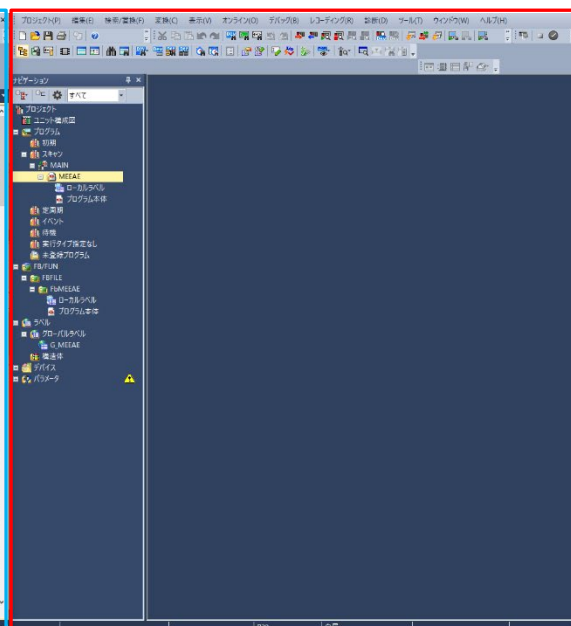
サンプルラダー



任意のラダー

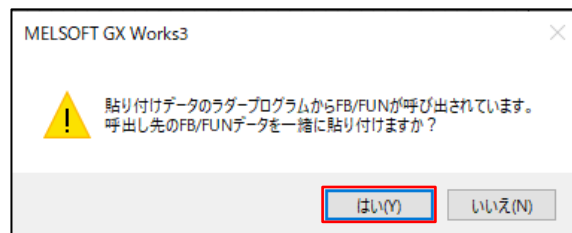


サンプルラダー



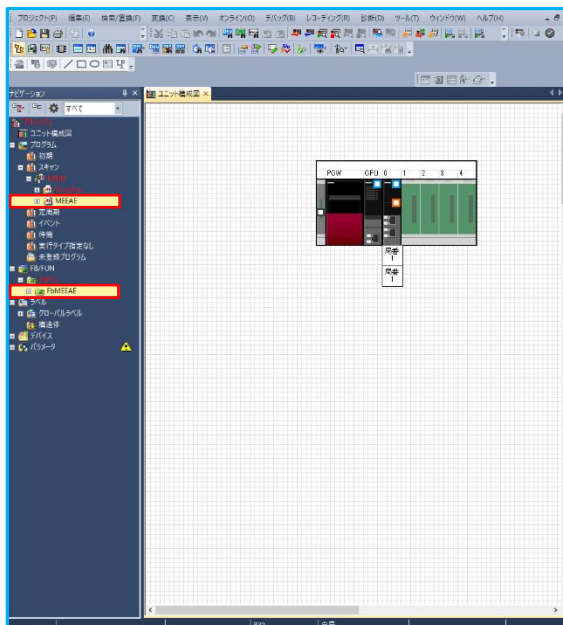


3. [はい]を選択します。

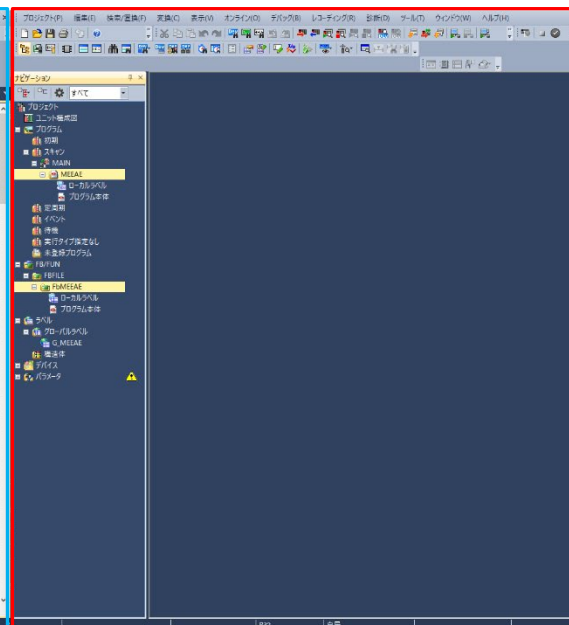


4. 任意のラダーに[MEEAE]と[FbMEEAE]があることを確認します。

任意のラダー



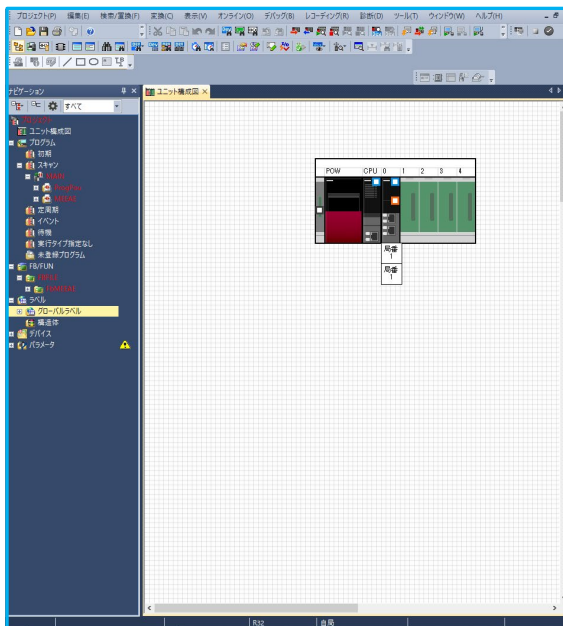
サンプルラダー



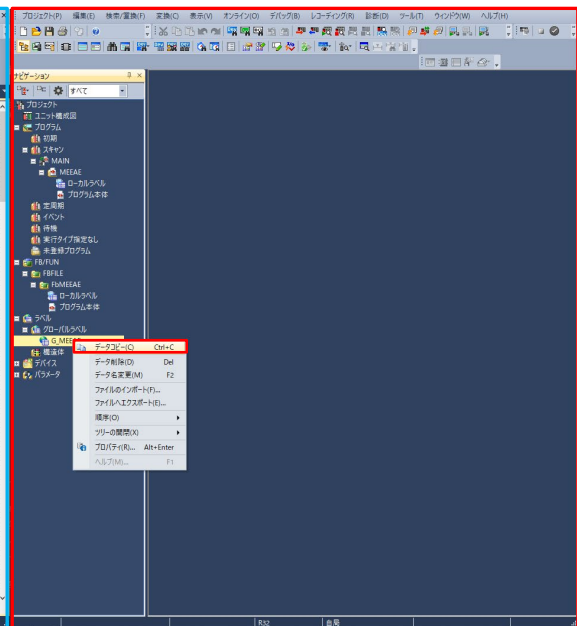


5. サンプルラダーの[ラベル]⇒[グローバルラベル]⇒[G\_MEEAE]を右クリックして[データコピー]を選択し、任意のラダーの[ラベル]⇒[グローバルラベル]を右クリックして[データを貼り付け]を選択します。

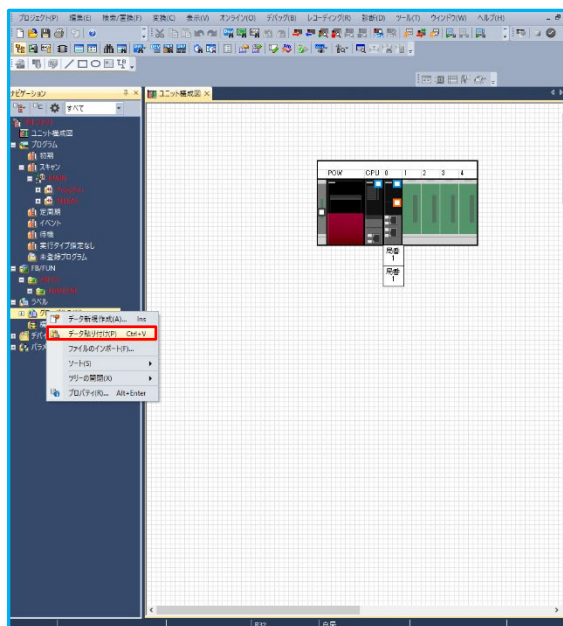
任意のラダー



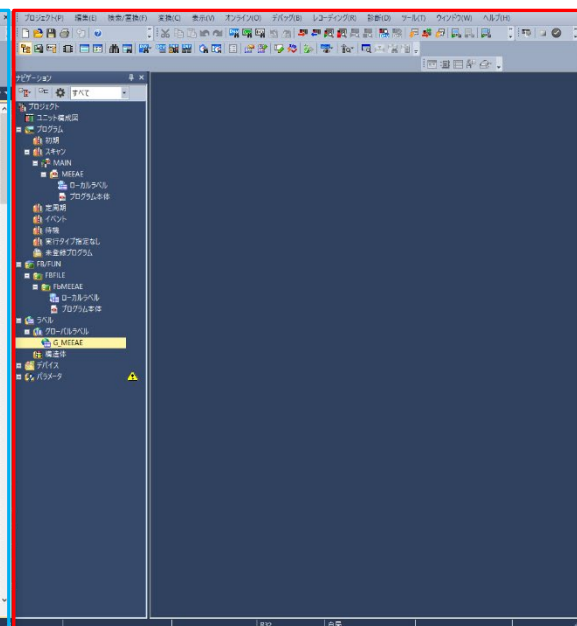
サンプルラダー



任意のラダー



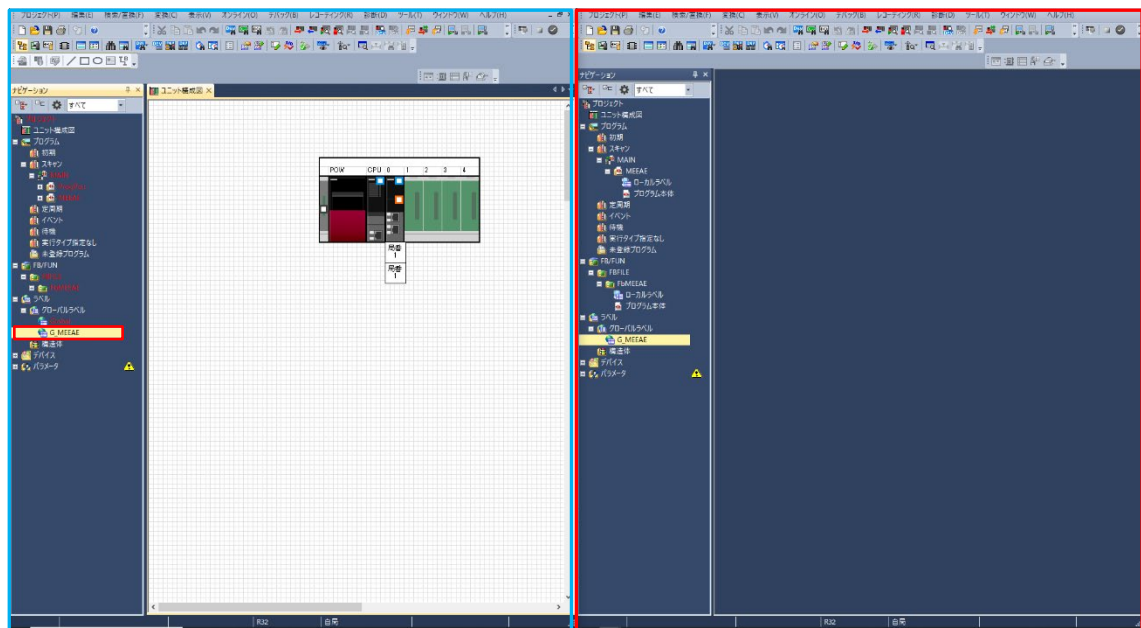
サンプルラダー



6. 任意のラダーに[G\_MEEAE]があることを確認します。

任意のラダー

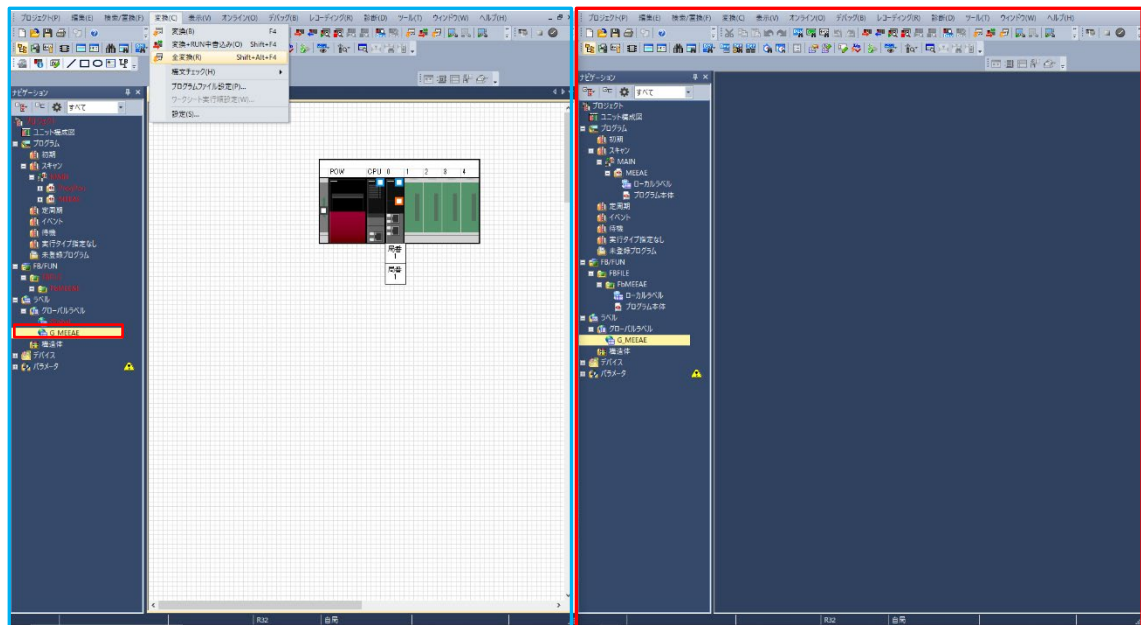
サンプルラダー



7. [変換]⇒[全変換]を実行します。

任意のラダー

サンプルラダー





# 3 信号処理装置の通信設定

信号処理装置YA01-DPTD2-MTの設定手順を示します。

本機器を Ethernet へ接続するためには、事前に通信用データ(IP アドレス, サブネットマスク, デフォルトゲートウェイ, 局番)を設定してください。

通信用データの設定は、当社 WEB サイトから、専用の”IP アドレス設定ツール”をダウンロードしてご使用ください。

ホームページ URL <https://www.mee.co.jp/sales/development/ae-sensor/index.html>

## 通信設定データ(初期設定)

項目	設定内容	初期値
IPアドレス	0.0.0.0 ~ 255.255.255.255	192.168.0.1
サブネットマスク	下表参照	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0 ~ 255.255.255.255	0.0.0.0
局番	0 ~ 255	0

サブネットマスクは以下の中から選択してください。

サブネットマスク	サブネットマスク	サブネットマスク	サブネットマスク
/1 128.0.0.0	/9 128.0.0.0	/17 128.0.0.0	/25 128.0.0.0
/2 192.0.0.0	/10 192.0.0.0	/18 192.0.0.0	/26 192.0.0.0
/3 224.0.0.0	/11 224.0.0.0	/19 224.0.0.0	/27 224.0.0.0
/4 240.0.0.0	/12 240.0.0.0	/20 240.0.0.0	/28 240.0.0.0
/5 248.0.0.0	/13 248.0.0.0	/21 248.0.0.0	/29 248.0.0.0
/6 252.0.0.0	/14 252.0.0.0	/22 252.0.0.0	/30 252.0.0.0
/7 254.0.0.0	/15 254.0.0.0	/23 254.0.0.0	
/8 255.0.0.0	/16 255.0.0.0	/24 255.0.0.0	

## 注意事項

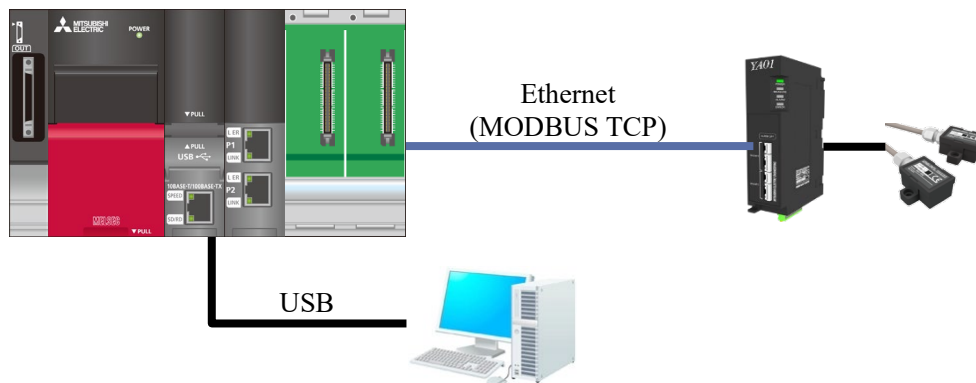
- ①PCと本機器を直接Ethernetケーブルで接続して1台ずつ設定して下さい。
- ②本機器の“LINK/ACT LED”が点灯していることを確認してご使用下さい。

# 4 動作確認

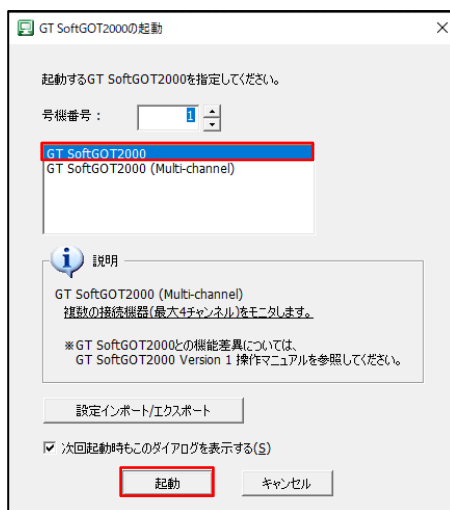
動作確認の手順を示します。

## 操作手順

1. 下図を参考に機器を配線して、それぞれ電源を入れてください。※電源配線は省略



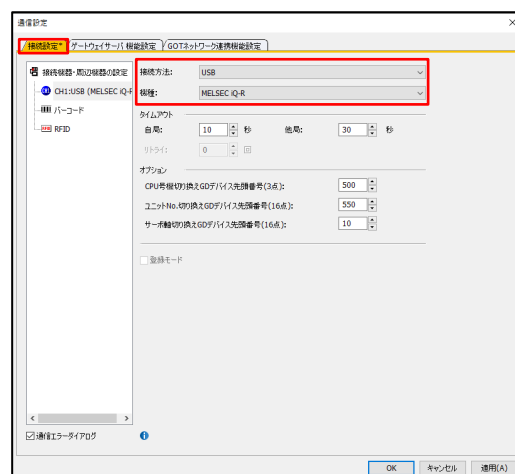
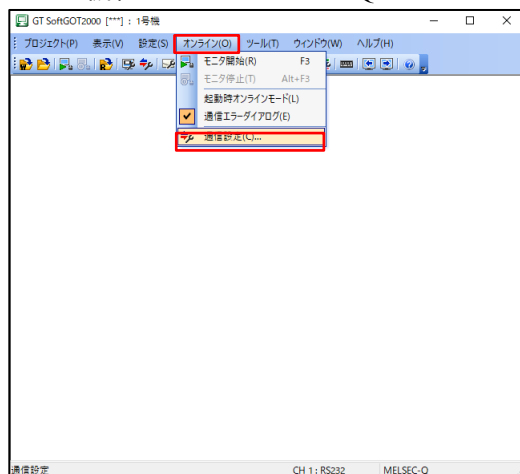
2. PCでsoftGOTを立ち上げ、[GT SoftGOT2000]を選択して起動します。



3. [オンライン]⇒[通信設定]の[接続設定]を以下のように設定します。

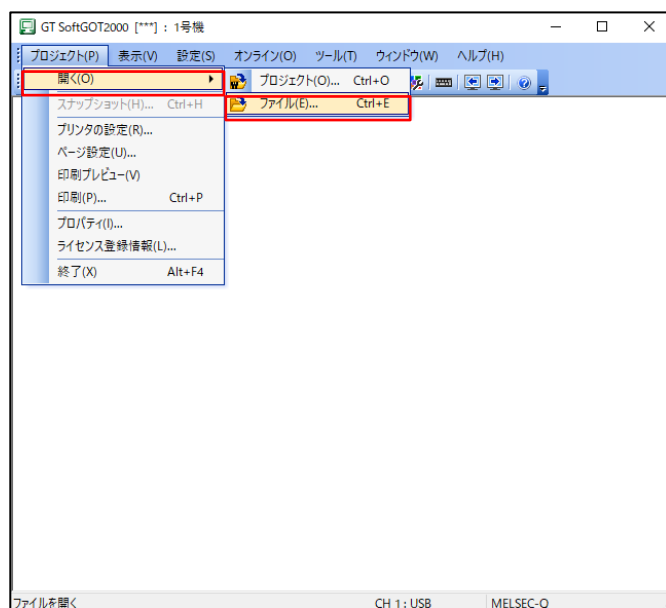
接続方法 : USB

機種 : MELSEC iQ-R



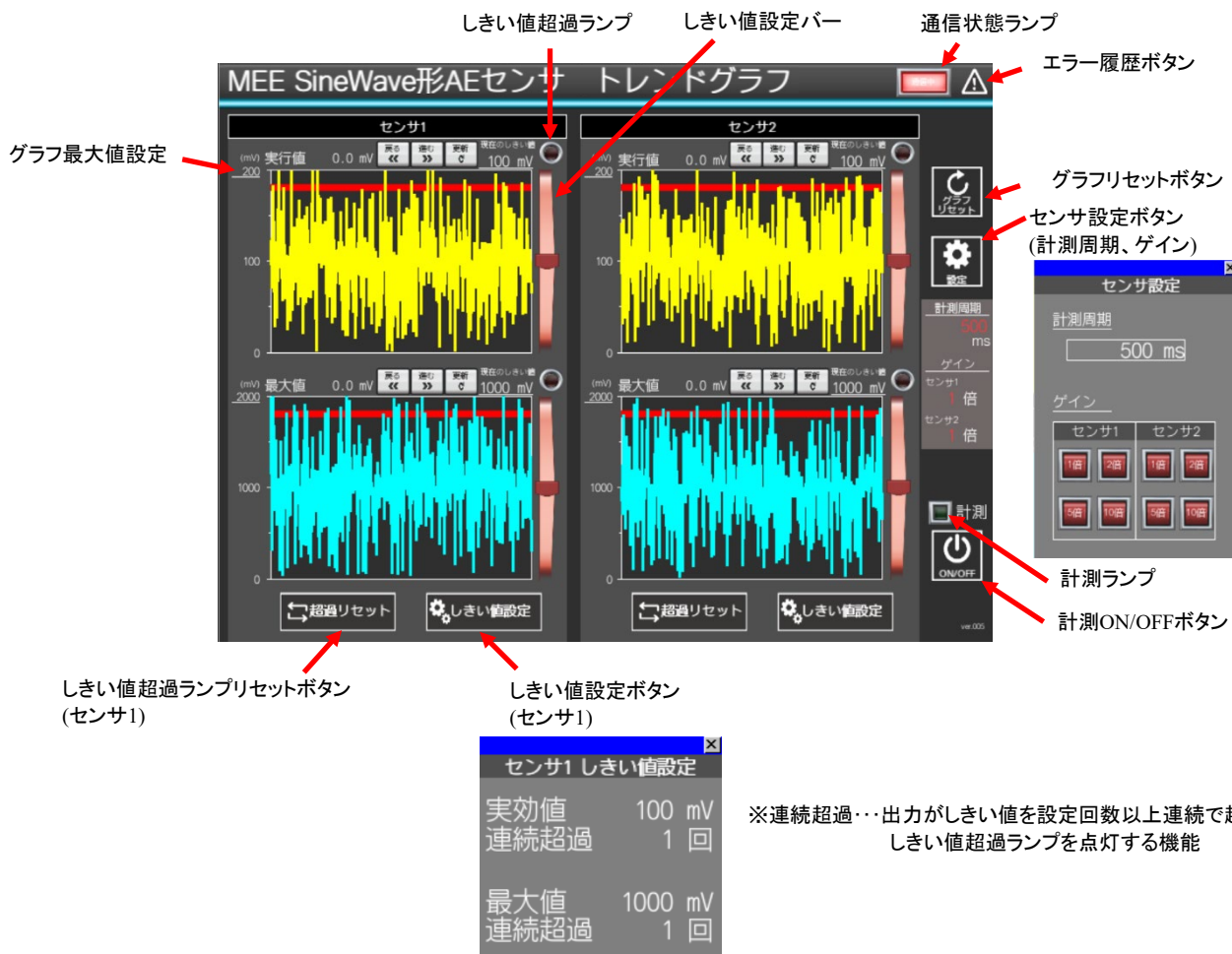
4. [プロジェクト]⇒[開く]⇒[ファイル]からサンプルラダー用のGOT画面ファイルを開きます。

ファイル名:MEE\_YA01-DPTD2-MT\_FHD\_Ver1\_J.GTX



Point

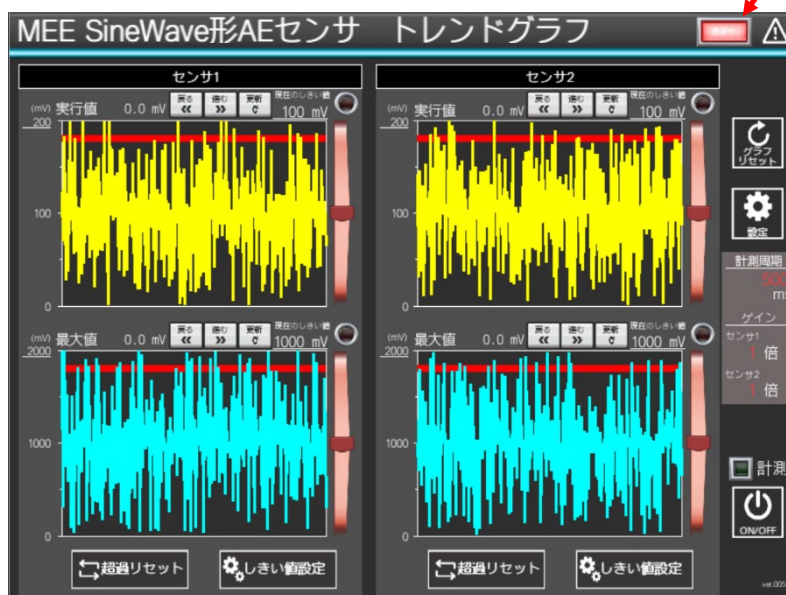
画面の見方を説明します。





5. シーケンサを[RUN]状態にし、通信状態ランプが点灯することを確認してください。

通信状態ランプ



※点灯しない場合は、P.7の交信相手設定、P.17の信号処理装置の通信設定をご確認ください。

6. softGOTで[設定]ボタンから計測周期(100～3600000)、ゲインの変更および[ON/OFF]ボタンで計測ON/OFFの切り替え(計測ランプ点灯/消灯)が正常に反映されるかをご確認ください。



## 5 信号処理装置の複数台接続対応

信号処理装置を複数台接続する場合は、同梱資料[(付表1)ld\_MEE\_YA01-DPTD2-MT\_R\_A\_J.xlsm]の[シート:MANUAL]を参考に設定してください。

※GOT画面ファイルは複数台接続対応しておりません。

### 補足

softGOTを使用しない場合の計測設定方法を示します。

#### 1. 計測周期

- ①ラベル名:「G\_wMEEAE\_WRM CYCLE」に任意の数値を入力します。(100 ~ 3,600,000)
- ②ラベル名:「G\_bMEEAE\_MCYCLES ETTINGFLAG」をON⇒OFFします。

#### 2. ゲイン設定

- ①センサ1のゲイン設定は、ラベル名:「G\_wMEEAE\_WRGAIN1」、  
センサ2のゲイン設定は、ラベル名:「G\_wMEEAE\_WRGAIN2」に任意の数値を入力します。(0 ~ 3)

入力値	ゲイン設定値
0	1倍
1	2倍
2	5倍
3	10倍

- ②ラベル名:「G\_bMEEAE\_GAINSETTINGFLAG」をON⇒OFFします。

#### 3. 計測動作切替

- ①ラベル名:「G\_wMEEAE\_WRMEASURESEND」に任意の数値を入力します。(1 or 2)

入力値	設定値
(0)	命令受付待ち
1	計測開始
2	計測停止

- ②ラベル名:「G\_bMEEAE\_MEASUREBTN」をON⇒OFFします。

### 注意事項

上記ラベル名は、信号処理装置の接続台数によって末尾に「\_O」が付与されます。

(例) 2台目の計測周期①ラベル名: G\_wMEEAE\_WRM CYCLE\_2

3台目の計測周期①ラベル名: G\_wMEEAE\_WRM CYCLE\_3



## 関連マニュアル

本書は製品のマニュアルではなく、製品を使用するための参考資料となります。製品の仕様、運転までの手順、配線、運転例、機能、トラブルシューティングなどは、下記の関連マニュアルを参照してください。

### ・ MELSEC iQ-R

マニュアル名称[マニュアル番号]	内容
MELSEC iQ-REthernet/CC-LinkIEユーザーズマニュアル (スタートアップ編) [SH-081252]	Ethernet, CC-Link IEコントローラネットワーク, CC-Link IEフィールドネットワークの仕様、運転までの手順、システム構成、配線、交信例について記載しています。
MELSEC iQ-REthernetユーザーズマニュアル(応用編) [SH-081253]	Ethernetの機能、パラメータ設定、プログラミング、トラブルシューティング、入出力信号、バッファメモリについて記載しています。
GX Works3 オペレーティングマニュアル [SH-081214]	GX Works3のシステム構成や、パラメータ設定、オンライン機能の操作方法などについて記載しています。
MELSEC iQ-R CPUユニットユーザーズマニュアル (スタートアップ編) [SH-081223]	CPUユニットの仕様、運転までの手順、トラブルシューティングについて記載しています。
MELSEC iQ-R CPUユニットユーザーズマニュアル (応用編) [SH-081224]	CPUユニットのメモリ、機能(データロギング機能含む)、デバイス、パラメータなどについて記載しています。

### ・ YA01-DPTD2-MT

マニュアル名称	内容
取扱説明書(詳細編) <sup>*1</sup>	SineWave型AEセンサおよび信号処理装置(YA01-DPTD2-MT)の取扱説明書です。機能、取付方法、配線図、製品仕様、安全注意事項、トラブルシューティングを詳述しています。
プログラミングマニュアル(MODBUS TCP)	SineWave型AEセンサ用信号処理装置(YA01-DPTD2-MT)のプログラミングマニュアルです。MODBUS TCP通信を使用してPCやPLCで制御する方法、計測開始設定、エラー処理、各種データ仕様などが詳述されています。
YA01-DPTD2-MT用シンプル機器通信ライブラリファイル リファレンスマニュアル	SineWave形AEセンサ用信号処理装置(YA01-DPTD2-MT)に関するシンプル機器通信ライブラリファイルのリファレンスマニュアルです。ライブラリファイルの使用方法、対応プロトコルの詳細、システム構成例、接続手順、設定手順、トラブルシューティングなどが記載されています。

\*1 三菱電機エンジニアリング株式会社の製品です。

# 改訂履歴

\*取扱説明書番号は、本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

バージョン	日付	内容
Ver.1.00A	2024/07/22	初版作成

本書によって、工業所有権その他の権利の実施に対する保証、または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については、当社は一切その責任を負うことができません。

© 2024 MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION

【商標について】

GOTは三菱電機株式会社の登録商標です。

Ethernetは富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標の登録商標です。

MODBUSは SCHNEIDER ELECTRIC USA, INC. の登録商標です。

その他、本資料における会社名、商品名は各社の商標または、登録商標です。